

経営比較分析表（平成29年度決算）

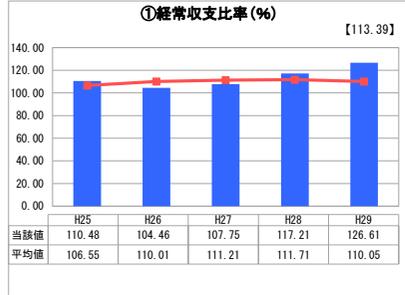
神奈川県 湯河原町

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	43.98	92.84	1,742	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,453	40.97	621.26
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
23,511	7.40	3,177.16

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

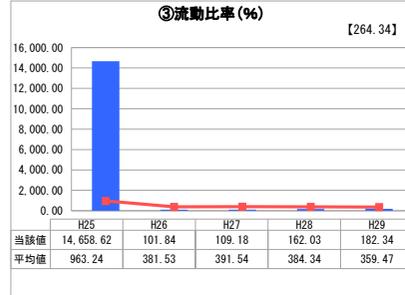
1. 経営の健全性・効率性



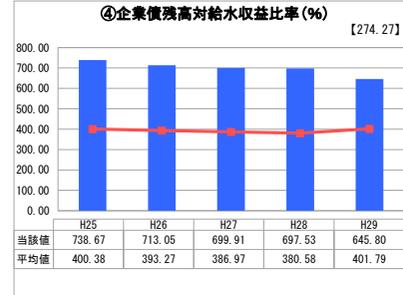
「経常損益」



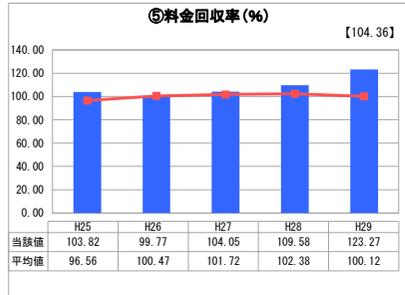
「累積欠損」



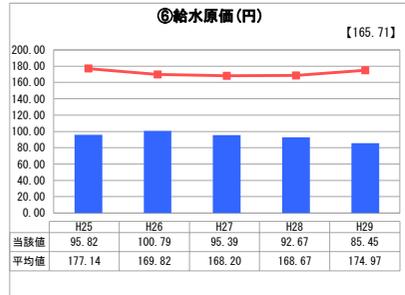
「支払能力」



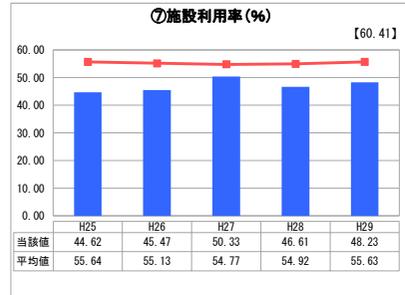
「債務残高」



「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

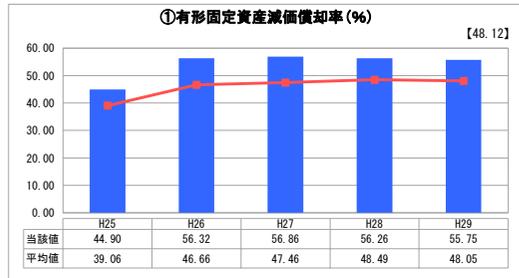


「施設の効率性」

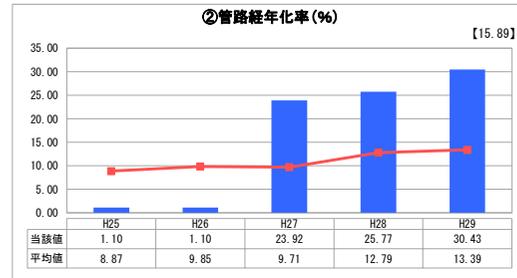


「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%以上、累積欠損比率0%、流動比率100%以上ですが、企業債残高対給水収益比率は類似団体内で高い水準、料金回収率は100%を上回る水準となっております。現時点での指標では投資規模が高いですが、比較的健全な経営といえます。

決算状況を経年比較すると、企業債償還金が増加傾向にあり、現金の減少傾向が見られることから、近い将来、厳しい経営状況に推移していくことが予想されます。

また、有収率が低いことから原因を特定し漏水対策を講じる等により、維持管理費の更なる削減を図る必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年率が類似団体内で高い水準になっている一方、管路更新率が類似団体内で低くなっていることから、施設の老朽化が進んでおり、必要な更新が進んでいないことが分析されます。

老朽化対策が急務な管路の洗い出し、その他施設の更新等の優先順位をつけ、施設利用率も考慮し、計画的に実施する必要があります。

全体総括

近い将来、厳しい経営状況に推移することが予想され、施設の老朽化が進んでいる状況を踏まえ、投資計画の見直し、漏水対策等による維持管理費削減を進めます。

また、料金収入見直しの必要性について検討を進めますが、近隣自治体と比べて企業債残高対給水収益比率が高い状況を踏まえ、料金水準、設備投資などを慎重に検討していきます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。